

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

R7年 7 月 30 日

(宛先)  
滋賀県知事

提出者  
住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)  
520-2316 滋賀県野洲市上屋88番地  
氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)  
ピー・アンド・ジー 株式会社 滋賀工場  
工場長 山口 哲也

滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項→第25条第4項  
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例  
第26条第1項  
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、  
[事業者行動計画を策定(変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン 株式会社 代表取締役社長 木葉慎介
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	兵庫県神戸市中央区小野柄通7-1-18

1 事業所の概要

事業所の名称	ピー・アンド・ジー 株式会社 滋賀工場					
事業所の所在地	滋賀県野洲市上屋88番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	6	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 化粧品製造
事業の概要	化粧品製造					
従業員の数	323	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者				
主要な設備	ボイラ	8	台	熱源設備	15	台
	コンプレッサ	7	台	空気調和設備	233	台
				照明設備	4568	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	R4	年度	報告対象年度	R6	年度
	終了年度	R9	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

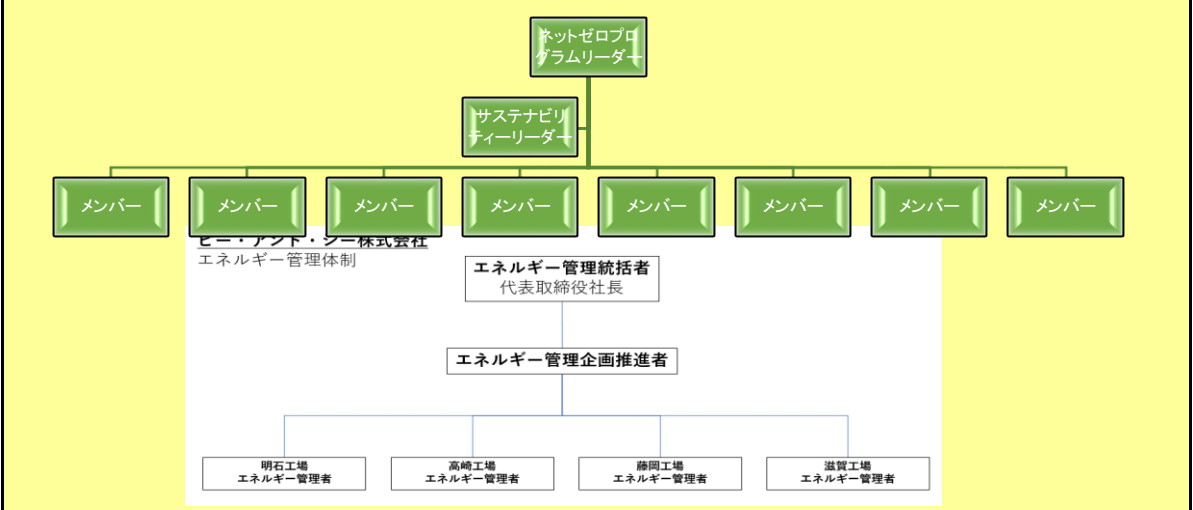
注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

当社のグローバル・グループは、2030年までに事業活動におけるGHGスコープ1+2の排出量を65%削減するという世界的な目標を掲げている。この目標を達成するための主な戦略は、i) GHG排出量をさらに削減するためのエネルギー効率の改善、ii) 長期的なゼロ・エミッションを実現する再生可能エネルギー・プロジェクトの開発、iii) 再生可能な熱エネルギーの実現可能なソリューションの発見、である。

2 取組の推進体制

工場内での取り組みとしてはサステナビリティリーダーというチームがありリードして社内向け・対外的な取り組みも含めて活動を行っています。



3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

<取り組み>  
 省エネ対策として以下のような取り組みを実施  
 ・工場棟が広がっていく中で、電力の使用量を抑えるべく、Officeなどに人感センサーを導入  
 ・新棟空調にフリークーリングシステム採用  
 ・生産エリアと設備の担当者が定期的に生産計画をもとに最適なUtilityの運用方法の検討会議を実施  
 ・Officeなどの空調運転を一括管理  
 ・再生可能エネルギー使用の開始(2019年度より)  
 ・太陽光発電システム導入(2021年度より)  
 ・GHPを廃止してEHPを導入することにより燃料による年間300tonの排出削減  
 ・J-Credit購入による1,935tonのCO<sub>2</sub>削減(2023年度)  
 ・生産エリアの集約によるUtilityの運転停止(2024年度)

<省エネ診断からの助言内容>  
 1. 放熱ロス改善  
 2. 蒸気トラップ更新  
 3. 排熱利用  
 4. 空調機の更新

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	空調設備 AHU(PAC)の更新☑	R3~R9年度	実施中
2	設備導入	Absorption ChillerをEHPへ変更	R4~R9年度	検討中
3	プロセス改善	生産に使用する純水削減による純水生成にかかるCO <sub>2</sub> の削減	R4~R6年度	実施済
4	設備導入	蒸気温水槽から太陽光温水器への変更	R5~R9年度	検討中
5	運用改善	生産ライン集約による生産エリアの縮小	R5~R9年度	実施中

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	CH <sub>4</sub>	マテリアルリサイクルを促進することにより焼却時に発生する温室効果ガス低減を図る	R4~R5年度	実施済(拡大検討中)
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方		目標の進捗に対する自己評価
上記の取組み等により令和3年を基準に以下の数値目標を目指します。  毎年5%削減  P&Gの考え方は以下の通り 実質の温室効果ガス排出量として算出(都市ガスを対象とする) ※電気は再生可能エネルギー使用のためカウントしない		実施継続中 絶対数の削減は達成しているが原単位に置き換えたときに目標達成が厳しくなっている。不要なエリアのエネルギーにかかる設備を極小化を行う。また2024年度からは原単位の見直しを行った。

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(R4)年度	(R5)年度	(R6)年度	( )年度	( )年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	8,293	8,036	7,523	6,520		
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub>	12,555	12,807	12,557	11,799		
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	12,555	12,807	12,557	11,799		
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	0	0	0	0		
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>						
HFCs	t-CO <sub>2</sub>						
PFCs	t-CO <sub>2</sub>						
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー等原単位の推移		0.057	0.058	0.055	0.067		

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	太陽光発電外灯設備新設	R4~R8年	検討中
2	EPA(Boiler)の追加	R5~R7年	実施済(3台)
3	EPA(Boiler)の追加	R7~R9年	検討中(5台分相当)
4	水素ボイラーの導入	R8~R11年	検討中
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	太陽光発電設備の増設検討
2	水素ボイラーの導入検討
3	電気ボイラーの導入検討
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	450 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ( )	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告					
		(R4)年度	(R5)年度	(R6)年度	( )年度	( )年度	
再エネ電気設備での発電量	kWh	5,940	865,269	878,957	886,884		
上記のうち自家消費量	kWh	5,940	865,269	878,957	886,884		

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
製品ボトルを廃棄物として排出せず、リサイクルとして再利用する循環型社会の構築(Mottainai Project)	SK-IIブランドとしてお客様から空になったガラスボトルをカウンターへ持ってきてもらい回収して、ガラスリサイクル業者にて再成型を行っている
	CO <sub>2</sub> 削減貢献量
	t-CO <sub>2</sub>

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
工場廃棄物の排出量を下げるとともに、技術的・経済的に実行可能な場合はサーマルリサイクルではなくマテリアルリサイクルに転換して処理時に発生する二酸化炭素の削減に寄与する。またゴミをそもそも出さないようデジタルツールなどの活用を推検討中である

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO<sub>2</sub>削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
CO <sub>2</sub> 削減貢献量の算出根拠

7 その他のCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに資する取組

## (1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(R5)年度	(R6)年度	( )年度	( )年度	( )年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO <sub>2</sub>	12,604	12,557	11,799			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 【調整後排出係数】	t-CO <sub>2</sub>	12,807	12,557	11,799			
【調整後排出係数】	kg- CO <sub>2</sub> /kWh						
特記事項							

## (2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(R5)年度	(R6)年度	( )年度	( )年度	( )年度
グリーン証書の購 入	t-CO <sub>2</sub>						
クレジットの購入	t-CO <sub>2</sub>	0	1,935	0			
特記事項		グリーン証書に関してはP&G KKとして90,000,000 kwhの非化石を購入している					

## (3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	物流の合理化	ドライバーさんの待機場所新設によるアイドリングSTOP	R3~	実施中
2	物流の合理化	出張時などは自家用車ではなく公共交通機関を使用する啓蒙活動	R4~	実施中
3				

## (4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	計画開始年度 前年度の 保有台数	実績報告					
		(R5)年度	(R6)年度	( )年度	( )年度	( )年度	
保有車輛の数	台	2	2	2			
上記のうち 次世代自動車等の 数	台						
特記事項							

(5) その他のCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	RE100	RE100%継続	R2~	継続中
2	3R	プラスチックパレットリサイクル変更	R4~	継続中
3	環境マネジメントシステム (EMS)	生産に必要なエネルギーデータの集約及び監視と改善プラン策定	R4~	継続中
4	サーキュラー エコノミー	使用後のボトルをお客様より回収して再利用	R4~	継続中
5	グリーン購入	エネルギーパーチャス(ガス)の開始	R5~	実施済